

一般演題ポスター 貼付日時：10/3（土）9：00～11：00、掲示日時：10/3（土）11：00～10/4（日）16：15、コアタイム：10/3（土）17：55～18：25、会場：D会場（中央多目的ホール1階）

演題番号	登録番号	氏名	演題名
P-01	2	齋藤 美幸	糖尿病のスティグマに関するX上の投稿の内容分析－予備的調査
P-02	8	國枝 洋太	健診センターにおける「フレイルドック」導入に向けたAI活用の試行的実践
P-03	9	坂本 昌彦	子どもの健康情報源としてSNSを利用する保護者の特徴：育児雑誌読者を対象とした横断調査
P-04	10	西村 多寿子	「やさしい日本語3文トレーニング」アプリの医療系教育・研修への実装：学生自由記述の分析と実務者支援への展開
P-05	11	廣谷 侑香	医療通訳者の職務満足感とトレーニング志向との関連
P-06	13	横田 理恵	薬学部生の口腔ケアに対する態度と自信を測定する尺度の開発－専門家パネルによる内容的妥当性の検討
P-07	14	後藤 英子	メタボリックシンドロームのリスクを有する一般市民の生活習慣と、対象者と同居する家族のヘルスリテラシーとの関連
P-08	15	穴沢 良子	メンタルヘルスリテラシーの構成要素に批判的視点を統合する拡張モデルの検討
P-09	16	川村 真奈美	看護師のコミュニケーションにおける苦手意識と具体的場面に対する苦手感と回避経験との関連
P-10	19	杉本 なおみ	子宮頸がん検診情報ウェブサイトのPEMAT評価：大規模言語モデル（LLM）間の評価特性比較
P-11	22	甲斐 更紗	組織ヘルスリテラシーの観点から捉えたらう・難聴者向けがん情報手話動画制作および持続的制作・発信の可能性
P-12	23	彦田 かな子	公共図書館を「がん情報と相談の入口」にする地域実践－「みんなのがん教室」の継続運営と参加者アンケートー
P-13	27	豊田 典子	医療系課程における「やさしい日本語」の導入実践：地方都市における多職種連携パイロット教育
P-14	28	西村 亜佐子	薬学生が参画した学内健康イベントの運営と活動報告:AIを活用した「つながり」の場づくりとサポーター学生の振り返り
P-15	29	志村 友理	調布市・狛江市・世田谷区における医療的ケア児のレスパイト入院のニーズ
P-16	33	北河 憲雄	「解剖学的リスク」プロジェクトー医療者間および解剖学者との視座共有から、患者・市民との共有へー
P-17	35	杉田 恵子	足から始まるシニアの学び合いー介護予防教室「健足サロン」におけるピア・エデュケーションの可能性ー
P-18	39	小泉 志保	対話型AIから健康・医療情報を得た一般市民における信頼、ハルシネーション認知および医療安全上のリスク行動：インターネット横断調査
P-19	42	澤野 暢子	子宮頸がん検診受検経験女性における3回以上の受検に関連する因子の検討
P-20	48	平山 愛恵	治療中のがん患者における心理的苦痛および将来の見通しに関連する心理社会的要因の検討
P-21	49	伊藤 直子	指先自己採血検査に関する認識ー受容性と実行可能性に着目したパイロット調査より
P-22	51	秋山 美紀	住民協働による「人生の終い方」をテーマとしたカードゲームの制作
P-23	54	石川 志麻	社会的孤独・孤立予防活動の事業運営を地域主体へ移行していく促進要因
P-24	56	遠山 修平	模擬患者アバターとの対話ログを用いた医学生の医療面接コミュニケーションの可視化とフィードバックの検討
P-25	58	堂本 司	組織文化と退院支援の関連および今後の研究課題：PubMedを用いた文献レビュー
P-26	59	堀抜 文香	生成AIとのつきあい方：一般市民向けの健康・医療情報収集・活用ガイド作成の試み
P-27	61	井出 和希	AIを活用した従業員向けデジタルヘルスサービスの導入：ELSI 31論点の抽出と7カテゴリへの分類
P-28	66	日吉 和子	AIユース相談、「いつ人につなぐのか？」ーユースクリニックにおけるAI相談ハンドオフモデル構築に向けた検討ー
P-29	67	金築 朋子	音楽療法士の専門性はコミュニケーション能力として語られる一文献の計量テキスト分析による検討ー
P-30	68	山中 知子	AI時代のヘルスコミュニケーションにおける「居場所」の可能性-夜間アウトリーチ「京都ユースストリートカフェ」の実践-
P-31	69	調 律子	産婦人科医が参加する「更年期カフェ」の実践報告ー専門知の提供と対話の場をつなぐ試み
P-32	70	村田 ひとみ	内省能力育成に向けたプロセスレコード活用の再考ー国内文献レビューを通してー
P-33	71	金屋 佑子	看護基礎教育における生成AI・対話型AIの活用に関する文献の動向
P-34	72	榊原 圭子	日本語版Burnout Assessment Tool 短縮版（BAT-12J）の信頼性・妥当性の検証
P-35	76	池下 貴子	産後うつ病とデジタルヘルスリテラシーの関連に関する文献の俯瞰的検討ー スコーピングレビューをととしてー
P-36	88	日吉 和子	宝塚市のユース保健室を起点とした若者支援ーユース食堂・NPOと地域ヘルスコミュニケーションの形成ー
P-37	93	野崎 百合子	父親の産後うつと夫婦関係に関するスコーピングレビュー

一般演題口演1 10月3日（土）13：40～14：55 A会場（1号館1-301教室）

演題番号	登録番号	学会番号	氏名	演題名
01-1	0	1	須賀万智	働く人のがん検診情報のタッチポイントとがん検診の受診意図との関係
01-2	1	4	楊歆	医療通訳者のコミュニケーション・スキルとトレーニング志向との関連
01-3	4	1	荒川美咲	多様な人々の医療研究開発情報へのアクセスと受け止めについて：アンケート調査の分析から
01-4	5	2	森本ゆふ	超高齢社会におけるデジタル・ヘルスリテラシーの実態：日本語版eHLQの信頼性・妥当性の評価と属性別比較分析
01-5	12	1	関美穂子	孤独感と生成AI利用頻度の関連—生成AIの擬人化に着目した日韓比較研究

一般演題口演2 10月3日（土）13：40～14：55 B会場（1号館1-0201教室）

演題番号	登録番号	学会番号	氏名	演題名
02-1	20	1	千葉宏毅	RIASを用いたコミュニケーション研究の発展の可能性～出現回数と発話長による2モデルアプローチの探索的検討～
02-2	21	1	渡邊清高	地域最適型AIがん相談サービスが創出する新たなヘルスコミュニケーション—患者と医療をつなぐ対話支援の可能性—
02-3	25	2	二野屏美佳	日本の中学生におけるeヘルスリテラシーの現状と関連要因について：日本の中学生とその母親を対象とした横断研究
02-4	31	1	浅井文和	日本の新聞におけるうつ病の責任フレーム：30年間の内容分析
02-5	60	6	井出博生	文章表現の工夫と一般の人の理解度の関係：乳がんの臨床研究に関するプレスリリースを事例とした検討

一般演題口演3 10月4日（日）10：40～11：55 A会場（1号館1-301教室）

演題番号	登録番号	学会番号	氏名	演題名
03-1	17	1	北澤京子	プレスリリースの質が高ければ記事の質も高いのか？—メディアドクター指標を用いた検討—
03-2	32	3	香川由美	知識教材と患者体験談教材が「がんスティグマ」「患者への共感」に与える影響：医・歯・看護学部生への提示順による比較
03-3	38	1	加藤美生	2026年春の「謎の風邪」言説はいかに広がったか：マスメディアとSNSにおける循環的増幅に関する記述的事例研究
03-4	45	1	瀬尾利加子	言語化と分割学習を組み合わせた市民向け学習モデルの構築～認知症・介護「正しく知るシリーズ」の実践を通じて～
03-5	53	1	金子隆明	妊産婦のヘルスリテラシーと心理的不調・産後うつとの関連—JACSIS妊産婦調査による検討と自治体母子保健への示唆—

一般演題口演3 10月4日（日）10：40～11：55 B会場（1号館1-201教室）

演題番号	登録番号	学会番号	氏名	演題名
04-1	63	7	岩隈美穂	生成AI利用は障害の有無によって変わるか：日本とオーストリアの比較研究
04-2	64	1	丸山智恵子	少年院法務教官のレジリエンス—「思い通りにならない」中で関わり続ける実践と支えの循環—
04-3	73	2	中山侑哉	片麻痺のある障がい者ゴルファーの大会中活動量と競技スコア：4例の個人差に着目した探索的検討
04-4	74	1	日吉和子	ユースクリニック支援者の価値葛藤を可視化する哲学対話の実践—予期せぬ妊娠への自己決定支援をめぐる対話—
04-5	87	1	青木宏賢	患者の語りを医師との対話につなぐ対話AI「tomori」の開発—価値観・懸念の構造化による外来がん診療の面談支援—